



楠隼中学校・高校だより

全国から生徒が集う全寮制中高一貫教育校

高校 高校1年生、ミニフィールドワークで肝付町を探索

7月22日(月)に、楠隼高校1年生(56名)が「ミニフィールドワーク」を行い、肝付町を探索しました。これは楠隼高校の特色あるカリキュラムの一つ、「肝付学」の一環で、現場に行き、実際に見たり、話を聞いたりすることで「リサーチ能力」を高めることが目的です。肝付町の全面協力の下、A郷土史跡コース、B産業コース、C農業コースの3コースに分かれて学びました。

Aコースでは「高山城趾」「二階堂家」「四十九所神社」を回り、高山城趾の構造とシラス台地の関連を考えたり、伝統的な家屋や麓や野町の町並みの変遷などを見学したりしました。Bコースでは地理的表示(GI)保護制度によってブランド

化されている「辺塚だいたい」の栽培を始め、「辺塚だいたい」の加工や加工品の販路拡大の工夫についてお話をうかがいました。Cコースでは畑地かんがい用水の水源となつている荒瀬ダムを見学しました。特色あるロックフィルダム形式のダムを実際に見学し、さらにこのダムの水を用いた農業の活性化の様子を農家の方から直接説明を受けました。生徒たちはこのミニフィールドワークを通して、肝付町について見聞を広めただけでなく、地域の特色を生かしながら、地域を盛り上げていく、地元の方々の郷土に対する思いを実感することができました。ご協力いただきました各関係団体の皆様、本当にありがとうございました。

A 郷土史跡コース



B 産業コース



C 農業コース



中学校

アメリカのスペース・キャンプに参加して

7月7日から6日間、アメリカ合衆国アラバマ州ハンツビルにある国立宇宙ロケットセンターで行われた「スペース・キャンプ」に、本校の2年生1名と、3年生1名が参加した。「スペース・キャンプ」は、中学生や高校生など、世界中の若い世代に宇宙科学について興味を持ってもらおうと、1982年から実施されている体験学習型プログラムである。これまで、世界60カ国以上の国から数千人が参加している。宇宙飛行士の訓練施設として実際に使われた施設を活用し、英語でコミュニケーションをとりながら、

だんと聞いて、話せるようになったのでよかったです。月の重力体験や船外活動体験など様々な活動があり、宇宙について楽しく学ぶことができました。アメリカの宇宙技術がどれだけ進んでいるかを学ぶよい経験になったので、将来に活かしたいと思います。

様々なチームワークを体験した。例えば、国際宇宙ステーションを運用しての模擬火星体験、NASAのプログラムを取り入れた宇宙飛行任務のシミュレーション、重力1/6体験、宇宙空間で身体が回転する感覚を再現する多軸トレーナーなどを体験した。このような体験を通して、問題解決能力や批判的思考、コミュニケーション能力の向上を目指している。生徒たちは、宇宙ロケットセンター内に宿泊し、他国の生徒たちと生活をともにし、様々なプログラムを経験しながら、外国の生徒とのコミュニケーションを英語でとつていた。今回の体験が、参加した生徒の将来の道標になることを期待したい。

〈参加した生徒の感想〉2年生
スペースキャンプでは、日頃とは違う環境で、アメリカの宇宙開発について、宇宙の天気に関する分野やISSを模した設備での体験など、学校では絶対にできない経験をすることができ、各国の同年代の友達もできました。しかし、英語がほとんどわからず、翻訳アプリに頼ってしまうことが多くなってしまいました。だから、これからはより一層英語を勉強して、世界の人と余裕で会話できる英語力を身につけたいと思います。

〈参加した生徒の感想〉3年生
英語にはとても苦労したけど、だん

